大衆心理を利用して
利益を上げる！

FX

# 維新流トレード術

維新の介

臆病だからこそ
FXでらくらく利益を出せる
テクニカル分析集

「勝てないトレーダーチェックリスト」付

## ９割のトレーダーが
## 失敗する理由はここに!!

INVESTMENT COLLEGE Co.Ltd.

# はじめに

世の中には幾多のテクニカル分析本があり、それぞれが「必勝法！！」と銘打って出版されていますが、そのテクニカル分析の裏付けとなるチャートの向こう側にいる人々の心理について触れられているものはほとんどありません。

相場はテクニカル分析で動いているのではなく目の前で動いているチャートをながめる多くのトレーダーたちの総意によって動かされています。その大前提を常に意識することによって、チャートは違った側面を見せてくれます。

本書「大衆心理を利用して利益を上げる！　維新流トレード術」では、トレードはテクニカル分析ありき……ではなく、大衆心理ありきという立場と目線で、値動きについてその心理面を重視して書いてみました。
ぜひ、日々のトレードの際に、こういった心理的側面を意識しながらチャートを見てください。

「手法」に振り回されず、投資家の心理や行動によってチャートが形作られるということを理解したとき、必ず違った世界が見えてきます。

トレードが難しく感じられるとき、自分のトレードを見失ってしまったとき、何度も読み返してください。きっとすっきりと整理され、相場がシンプルに見えてくると思います。

# 目次

## CHAPTER01 相場における個人の心理

チャートの向こうにいるのも個人 …… 5
なんのためにトレードをするのか …… 6
優れたトレーダーに対する誤解 …… 8
トレードに魔法はない …… 9
相場に幻想を抱かない …… 10
相場の先はわからない …… 10
「メンタルを鍛える」のウソ …… 11
損切りができないトレーダー …… 14
お小遣い程度が稼げればいい…は存在しない …… 16
人は統計的に考えられない …… 17
利益でも損を感じる人間心理 …… 18
本当は怖いスキャルピング …… 19
相場は簡単？　難しい？ …… 21

## CHAPTER02 相場における大衆心理を考える

トレーダー心理と相場 …… 23
価格（レート）とは？ …… 24
相場における大衆心理 …… 26
後付け認識のバイアス …… 28
猿は見てから行動する …… 29
効率的市場仮説のウソ …… 30
レートはなぜ上下する？ …… 31
チャートを分析するということ …… 32
トレンドに乗るのではなく、トレンドで利を得る …… 35

## COLUMN

トレードは地味な世界 …… 135
テクニカル分析とは？ …… 150

## CHAPTER03 テクニカル分析から大衆心理を読む


インディケーターのクロスがテクニカル分析ではない …… 39
技術 01　方向を表す移動平均線 …… 40
技術 02　楽観エリアと悲観エリア …… 42
技術 03　グランビルの法則の考え方 …… 46
技術 04　移動平均線の発展形「MACD」 …… 48
技術 05　ダウ理論を正しく理解する …… 54
技術 06　投資家心理を表すオシレーター …… 62
技術 07　ダイバージェンス …… 66
技術 08　勢いを読むボリンジャーバンド …… 76
技術 09　押し目を拾う難しさと対処法 …… 84
技術 10　トレンドラインの引き方 …… 88
技術 11　ブレイクアウトについて …… 112
技術 12　注文の集中とエリオット波動 …… 116


## CHAPTER04 手法への応用


考える …… 125
技術 13　テクニカル分析は万能ではない …… 126
技術 14　順張りと逆張り …… 128
技術 15　移動平均線のエリアで考える …… 132
技術 16　MACD でトレンドフォロー …… 136
技術 17　チャートをデコレート…!? …… 138
技術 18　トレード３つの性質 ゆえに… …… 140
技術 19　トレードは損切りから考える …… 142
技術 20　利確も損切りも同じこと …… 144
技術 21　スキャルピングを考える …… 146
技術 22　理の伸ばし方はシンプルに …… 148


## CHAPTER05 最後に


精進 …… 151
相場はわからないものという大前提 …… 152
相場を分類して考える努力 …… 153
勝てないトレーダーチェック …… 155

CHAPTER 01

# 相場における個人の心理

individual psychology in the market

## チャートの向こうにいるのも個人

トレードはチャートに向かってするものです。そのため、トレーダーの心理としてはチャートを相手にしているかのように感じます。

ですが、あなたが相手にしているのは、あなたと同じように、大切なお金をかけることに不安を感じ、値動きの上下に一喜一憂する、同じ人間です。決してチャートそのものではないのです。

相場というのは、数字やチャートだけで語れるものではなく、そのチャートの向こうにいる人々を思い浮かべながら取り組むことによってそのトレードは全く異なったものとなります。

そのためには、まず相場に向かった時の個人の心理を知らなければなりません。また、それを知ることによって、自分自身のトレードの向上にもつながります。

「維新流トレード術」の具体的な技術を学ぶ前に、まずは相場における個人の心理を学んでいきましょう。

## なんのためにトレードをするのか

根本的な部分です。当然この問いに対する答えは、「儲けるため」ということになると思います。ではなぜ商売ではなくトレードなのでしょうか？　それは、トレードというのは、少ない資金で大きな金額を稼ぐことができるという「幻想」があるからです。

ですが相場というのは資本主義の原理原則であり、「安く買って高く売る、高いときに売って安く買い戻す」という行為を繰り返すことであり、商売となんら違いはありません。設備に投資し、その設備によって投資金額の何倍もの額を回収する。こういったものも投資です。目の前のチャートに向かってクリックを繰り返すことだけが投資ではありません。

では設備投資をし、それを利益につなげることに魔法（聖杯）はあるのでしょうか？　もちろんそのようなものはありませんし、誰もが利益を得られるわけではなく、失敗も考慮しなければならないのは皆知っています。

にもかかわらず、トレードに関してだけは、まるで勝っている人が特別な方法を知っているかのように思われ、また、そう思わせるような情報が氾濫しています。ですがそんなものにお金をつぎこむだけ無駄です。相場で勝つためには、そして勝ち残るために必要なものは

**正しい知識と経験のみです。**

つまり、**何か方法を知ったら突然勝てるようになる…というものは存在しません。**
トレードを行うとき、そしてなんのためにするのかを考えるときに、一攫千金を夢見て、その方法を求め続けることが目的となっているのならば、あなたは少し考え直す必要があります。
これは私がお教えしている方々に繰り返しお伝えしていることです。矛盾しているようですが、トレードは稼ぐことを目的としてするものではありません。

## よいトレード、うまいトレード、理にかなったトレード。
## これらを長い間繰り返した「結果」、財を成していた。

**よいトレードをすることだけを心掛けた結果、富がついてくる。**トレードはこうあるべきなのです。そして、良いトレードをすること「だけ」を考えて相場に向かい続けることによって、勝っても負けても動じなくなります。

よく、「トレードで負けた〜」と言いますが、負けトレードは、負けであって負けではありません。良いトレードをした結果がマイナスであったとしても、それはトータルで勝ちに近づくための必要なトレードなのです。

本当の意味での負けトレードとは、良いトレードをせずにマイナスになったものを指すのであり、**そしてそれは「失敗トレード」と言われます。**負けトレードは、良いトレードをしている限り全く問題ありません。

負けを取り返そうとする感情トレード、自らの失敗を認められず、損切りができなかったトレード、こういったものが失敗トレードです。

**自らの理に基づいたトレードをしている限り、**
**たとえマイナスが出ようとそれは良いトレードなのです。**

## 優れたトレーダーに対する誤解

前述しましたが、トレードの世界に入ってきたとき、人は何らかの勝つための魔法があるに違いないという幻想を抱きます。

勝っているトレーダーはきっと特殊なインディケーターの組み合わせで、特殊な期間設定があって、それらをこっそり使って儲けているのだと……（笑）

さらには、どんなところでもエントリーすることができて、そして相場の先を的確に予測できるはずだと。

もし勝っているトレーダーに対してこのような考えを持っているのなら、即刻改める必要があります。

**まず安定して勝っているトレーダーほど、特殊なことはしていません。**
**「理にかなった」ことをしているのです。**

将来の値動きの予測。

予測しろと言われれば、過去の値動きに照らして、さらには注文の集中しやすいポイントや上位足からの流れや強弱から、ある程度の予測をすることは可能です。ですが相場というのは時に不可解な動きをし、また、大手のファンドは巨大な為替相場すら動かす資金を持っており、一般投資家をゆさぶる動きを仕掛けてきます。

ならば必要な能力は、**いついかなる動きにも「対処」できる能力**ということになります。

自分の思惑と違った方向に相場が動いたときに、いかに早くそれを判断し、さらには「理」にかなった損切りができるか。思惑通りに動いたのであれば、迷ったり欲に惑わされたりせず、自分が決めたラインで利確ができるか。それが大切であり、優れたトレーダーの要件です。

## トレードに魔法はない

手法を手に入れ、そしてその手法が最初に「たまたま」ワークすると、人は、「ついに聖杯を手に入れた！！」と思い込み、まるで自分が素晴らしいトレーダーになったかのように勘違いします。

しかし、やがてその手法が通用しない相場へと突入しても、トレーダーは勝っていたときのことが忘れられず、ひたすら負けを積み重ね、いつの間にか儲けた以上の額を相場につぎこむことになります。

そこから見えてくることは、相場に魔法はなく、勝ち続けることができる単一の手法があるわけでもなく、その手法が「通用する相場」「通用しない相場」を把握することが大切だということです。

つまり、**現在の相場がどういう状況であるのか（相場環境）**

これを把握する能力です。そしてこれは小手先の手法でどうにかなる問題ではなく、しっかりとした基本を身につけて、初めて対処できる事柄なのです。

## 相場に幻想を抱かない

相場の世界に入って、さぁトレードをいよいよ始めるとき、人は、これで私も億万長者の仲間入り……といった夢を抱きます。夢というよりも、それは儚い幻想です。（人の夢と書いて「儚い」……）

相場の世界は、実力がなければ決して生き残ることはできません。小手先の手法を覚えたからといってすぐに勝てるような甘い世界ではないのです。

相場で勝っているのは1割。実に9割の人たちが勝てていないのです。さらにその勝てている1割のうち、5年10年と生き残ることができるのは、これまた1割と言われています。トレードで資産を築くにはある程度の時間はどうしても必要だということを考えるならば、数％のトレーダーしか大きな資産を築くことができていないのです。



## 相場の先はわからない

前述しましたが、勝てるトレーダーは、予測を完璧にできるから勝てているわけではありません。それよりもむしろ、「相場の先はわからない」というスタンスに立っています。先を予測するアナリストとは、根本的に違うのです。アナリストは自分のお金を賭けていません。予測をはずしても、痛くもなんともありません。

ですが実際に資金を運用しているトレーダーとしては、「先がわかるわけがない」相場において、「先を予測する」という行為が、いかに矛盾し、そして無駄なことであるかをよく知っています。

また、負けているトレーダーに共通する心理が一つあります。それは**相場に「確実」を求めている。**ということです。トレードは「トータル」で勝つものです。少額の損失は受け入れなければなりません。大切なのは、先を読めるようになることではなく**思惑方向と違う方向に動いたと、何をもって判断するか**です。**違うと判断できたところが損切りライン**であり、それを早く判断できる方法があれば、それだけ勝

ちに近づきます。だからといって相場すべてを理解しようとしたらダメですよ。

それは絶対に無理なことなんです。それよりも、すべきことは、**わかるところがわかるようになることです。**つまり、いくらレートが動こうとも、わからないところはわからないと割り切ることです。

## 「メンタルを鍛える」のウソ

よく書籍やサイトで、**「トレードで勝つためには強いメンタルや適切なメンタルコントロールが必要である」「利を伸ばすにはメンタルを鍛えなければならない」**といったような文言を見かけます。ですが、そのメンタルを鍛える方法に触れたトレード本には、なぜかほとんど出会ったことがありません。不思議ですね？

**それは筆者がメンタルについて勘違いしているか、メンタルの鍛え方を知らないかのどちらかです。**

確かに精神論というのは、さまざまなゲームのピンチの局面を打開するきっかけになります。ですが、それはその精神に耐えるだけの技術や、スポーツであればそれだけの肉体をすでに持っているわけです。決して人は持っているもの以上のことはできません。メンタルによって集中力が上がり、最後まで体力や技術を振り絞ることができたにすぎないのです。

ではトレードにおいてはどうでしょうか？　**持ってもいない技術や知識、この不足分は、はたしてメンタルを鍛えることによって補うことができる性質のものでしょうか？**　答えは「否」です。また、「メンタルが弱くて利が伸ばせない」といった相談もよく受けますが、「そうじゃない！！」と言いたい。利の伸ばし方を知らない。そして、理にかなった方法で利を伸ばした経験が不足している。さらに、理にかなった方法を知っていても、知っているだけで理解していない。根拠もわからずにただ手法だけを知り、それを守ろうとする……つまり、**守るべき理由もわから**

**ず、守らなければいけないというその不安からメンタルを鍛えないといけないのでは？ということになるのです。**

でもそうではないのです。

確かに、感情に左右されないトレードが必要だからメンタルを鍛えることは必要だ……と反論されることもあります。しかし、ちゃんと勝ち方がわかっており、そしてエントリーしては危険なところがわかっているトレーダーが感情に左右されるようなめちゃくちゃなトレードを繰り返すものでしょうか？

トレードすべきところ、休むところ、心がぶれないエントリーに資金管理。そういったことを「知っている」トレーダーは、感情とは無関係のところにいます。あくまでも、「知らない」から不安になるし、どんなところでもとりに行きたいと思うようになるのです（怖いもの知らずともいいますね）。人は正体のわからないもの、理解できないものに対しては恐怖や不安を感じるようにできています。

ではその恐怖を感じないようにするにはどうしたらいいのか？

**その正体を理解すればいいのです。**

相場においては「何事も起こり得る」のです。

まずそこを信じることがスタートです。

ところがトレード初心者は、その「何事か」が起るのがいやで、とにかく相場に完全なる正解を求めようとします。それが損切りができないことにつながり（つまり持っているポジションを否定できない。間違いを認められない。）、資金を失っていくのです。

勝つためには、ルールに従って「機械的に」トレードするとよく言われます。ですが人は機械にはなれません。これはそういうことではなく、「相場は不確定に満ちているため、機械的にするしかない」ということです。そこに、「もしかして……」などという希望的観測は入る余地がないのです。

野球のヒットは、決してメンタルで打てるものではなく、基礎体力、しっかりとした安定したフォーム、日々の練習、これらの上にしか成り立ちません。打てたとしてもそれは一発だけであり、決して「安定」したものには成り得ません。そして、「安定」しないかぎり野球のプロとしてやっていくことはできず、トレードで勝ち続けることもできないのです。

**メンタルを鍛えるということは、結局自分のトレードに対して自信をつけるということです。**

上達は「己を知る」ところからがスタートです。これはつまり、**自分ができること、できないことをしっかりと把握すること**から始まります。「自己の弱いところを見つめる」これは心情的には非常にイヤなものです。でも自分ができないところがわかれば、逆にできるところもわかります。

できないところがわかれば、それができるようになるということもあるのです。勝てないトレーダーは、できない部分を見つめようとしません。わからないことをそのままにし、ネットに、書籍に、「簡単な」方法を求めます。簡単に勝てる方法なんてないと、あれだけ言われているにも関わらずです。

そして理解しないままに、ただ方法論だけを試し、不安にかられ、その方法すらも守ることができず、負け続け、さらに自分のトレードに対して不安になり、感情に支配されたトレードを繰り返すようになるか、怖くてまったくトレードできなくなるかのどちらかの道を選ぶのです。

## 損切りができないトレーダー

勝てないトレーダー、資金を飛ばすトレーダー。彼らに共通することは、そのほとんどが、損切りができないことにあります。知識や技術がなく、感情でトレードしている人々が、思惑と反対方向にレートが動き始めたときにすること……それは、

**「祈る」**

祈って相場が思惑どおりに動けば世話がなくていいですね。しかも祈れば祈るほど、なぜか相場は逆行するという不思議な現象が起こります。（笑）　また、困ったことに、この「祈る」という行為を、「ちゃんと考えている」行為であると勘違いしているトレーダーも多いのです。

そんな彼らがする損切り。それは、「資金を失くす」と同義語です。

資金を失うほどの含み損を抱えて、初めてその含み損のポジションを解消することができるのですからね。手遅れですが……損切りができない理由として、何かの本に書かれていたのですが、期待を込めてポジションを持ったあまり、そのポジションに愛着がわき手放せなくなるという説があるようです。

しかし私はこの説には反対です。

ただ単純に、

**損切りができないトレーダーは、**
**そこで損切りすべき理由を知らないのです。**

損切りをしなければどうなるかを知らず、損切りすることこそが勝てるトレーダーへの道だと知らないのです。そのため、無知ゆえに相場に夢を抱き、反転することを期待するのです。**意思決定するための材料を持っていないから、期待するしかないのです。**

**ただの「未熟」です。メンタル以前の問題です。**

例えば買いポジションを保有しているのであれば、足りない知識で上にいく材料ばかりを探し出し、不安を払拭し、無理やり安心しようとします。**すでに下にいく材料のほうが多いにも関わらず……です。**

また、トレードの判断材料がなく、感情でエントリーを繰り返すトレーダーは、当然損切りや利確も感情で行います。勝てるわけがないんです。

また一つ覚えておかなければならないこととして、トレードは「負の期待値」を持つゲームだということです。

コインで裏と表を当てるゲームでは、「勘」で答えたとしても、数多く繰り返せば、トータルで勝率は50%です。ですがトレードにはスプレッドというものが存在します。つまり、コイン投げのゲームをした場合、手数料が取られるということです。

100円の裏か表かを当てて、勝者がそのコインを手にすることができたとしても、手数料が10%とられるのであれば、100円のリスクと引き換えに得られる利益は90円なのです。

つまりトレードとは、最初からマイナススタートの（負の期待値を持った）ゲームなのです。さらにそこに感情トレードを織り交ぜることによって、プロスペクト理論により、利確は早く、損切りは遅くなり、ますます負の部分を増やします。

### プロスペクト理論

利益が目の前にあるときは、利益よりもリスク回避を優先し、損失が目の前にあるときは、損失を回避しようとする人の感情。利益がのっているときは、すぐに利益確定したくなる(リスク回避的)が、損失があるときは損切りができない(リスク愛好的)ということ。

## お小遣い程度が稼げればいい…は存在しない

勝てるか、勝てないかがトレードの世界であり、勝てるのは１割、勝ち続けることが（生き残ることが）できるのは、さらにそのうちの１割と言われる世界です。

「ちょっとだけ稼げたらいいや」「お小遣いがわりに……」などという気持ちでどうこうなる世界ではありません。相当の覚悟をもって臨んでほしい世界です。

**トレードというのは、大きく稼げるか、資金を減らし続けるか、そのどちらかです。**

雑誌とかで数千万円稼いだ。その後、何百万円損切りした。また増えた。こんな波の激しいトレードをしている人が「勝ち」トレーダーとして紹介されていたりしますが、これは、今「たまたま」資金がプラスの状態にあるトレーダーと言い換えたほうがいいですね。コンスタントに、徹底した資金管理のもとに、安定して資金を増やせなければ意味がありません。

また、ちょっと稼いだからといって専業トレーダーになる人がいますし、それをうらやましいと感じる人がいます。しかし、そんな考え方を持つまえに、少し冷静に考えてみてください。そのトレーダーは、その後何年も稼ぎ続けていますか？　安定して資金を増やし続けていますか？　途中で大負けとかしていませんか？　ストレスのたまるトレードではありませんか？　それらを見極めてからうらやましがっても遅くはありません。

トレードの目的は上手にトレードすることであり、安定して資金を増やすことです。頻繁にトレードすることでも、どんなところでもトレードできる能力を手に入れることではありません。変な幻想や情報に惑わされないでください。

## 人は統計的に考えられない

相場は負けトレードが避けられない以上、「トータル」で勝つものです。

・ルールは守らなければならない
・ナンピンは危険
・利はできるだけ伸ばす
・資金管理は必須

全て多くのトレーダーの長年の経験と結果とデータをもとに統計的に考えられたものです。でも確率や統計の授業って難しくありませんでしたか？　私は苦手でした（笑）**とっさの判断が必要なとき、人は感情で動きます。**相場においての感情とは、「欲」と「恐怖」です。これらがトレードルールを「守らせない」方向に働きます。

ですが、これらは「知る」「理解する」ことによってかなりなくすことができます。

人は知らないものに恐怖を感じるわけですが、世の中に出回っている手法というのはその「根拠」を示せていないから守れないという面があります。またその情報の受け手側である我々も、根拠を知ろうとせず、理解を深めようと努力しないから相場に恐怖します。

「どうやったら利を伸ばせますか？　メンタルがもちません。」

このような質問をよく受けます。このような方は、考え方を、利を伸ばそうとするよりも、損失をださないように切り替えたほうがいいですね。わからないものに対して期待しすぎるから利が伸ばせなくなるのです。

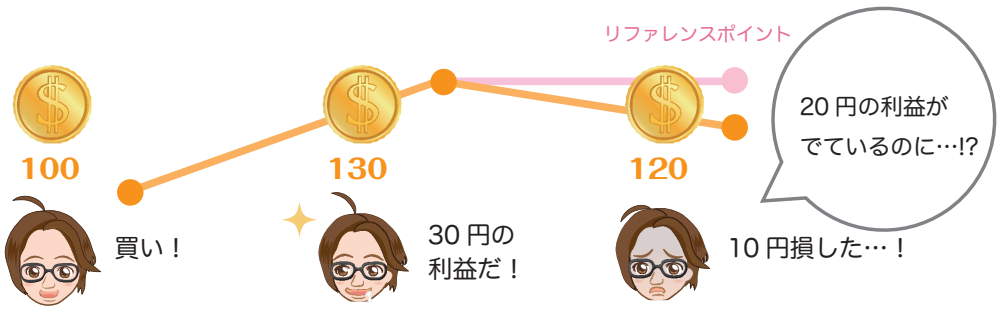
先ほどでてきたプロスペクト理論では、利益が出ているとき、人はローリスクローリターンを求めるのです。つまり薄利でもとにかく利益を確定してしまおうという心理ですね。

## 利益でも損を感じる人間心理

またそれとは別に、リファレンスポイントというものがあるんです。

待ち時間「5分」となっているときに、1分で順番が回ってきたらラッキー♪10分で順番が回ってきたらアンラッキー…。このようになる心理です。最初に「5分」ってところに、人は心理的な基準を作ってしまうんです。

100円で買ったドルが130円になったら、リファレンスポイントは130円に引き上げられてしまうので、今度はそれが120円に下がったら、まだ20円の利益がでているにもかかわらず、トレーダーは、10円損したと考えてしまうのです。だから、ポジションを保有している状態で、たとえ利益がでていたとしても、わずかにレートが下げてくればあわてて利確してしまいます。(これは利の伸ばし方を「知らない」ことによる不安から)




プロスペクト理論にあるように、とにかく人というのは、利は伸ばさないといけないとわかっているにもかかわらず、早めに利益を確定したがる傾向があります。それに加えて、リファレンスポイントから見える利益がでているにもかかわらず「損した」と思う感情があるのです。

簡単に言ってしまえば、「イヤなことは拒絶したい」という感情です。それを防ぐには、

**マイナスにならない限り資金は増えている。**

こういう現実をとにかく見つめ続けること。

それと、「理」にかなった、納得できる利の伸ばし方を知るしかありません。

## 本当は怖いスキャルピング

スキャルピングとは、僅かな利幅を狙って、短時間（数秒～数分）で売買を繰り返す手法のことをいいます。これはこれで立派なトレード方法なのですが、初心者トレーダーがスキャルピングをし始めるのは、だいたい２つのパターンが考えられます。

**逆行するのが嫌だからできるだけ絶妙のタイミングを欲しているうちに**１時間足でトレードしていたのがいつのまにか１分足トレーダーになっていた。今は怖くて上位足でトレードできない。

**トレードする時間があまりないから、できるだけ多くのトレードチャンスを狙って**１分足トレードとなった。仕事を終えてからでもスキャルピングならたくさんのチャンスがある。

前者は損失を出すのが**「怖い」**（エントリー後の逆行が耐えられない）という心理。後者はチャンスを逃したくない**「欲」**という心理。ですがスキャルピングというものを冷静に考えてみた場合、実は非常にリスクが高いことをしているのが見えてきます。

リスクはまずスプレッド分。これはどの時間軸でトレードをしても同じです。ですが、トレード回数を多くすればするほどこれは増えていきます。１日に３回しかトレードしなかった場合と 30 回トレードした場合それを１か月続けた場合を考えてみてください。

スプレッドが２pips だった場合。１日に３回だとマイナス６pips スタート。１か月（20 日）であっても 120pips の経費です。これが１日に 30 回のトレードとなったら？　２pips × 30 回＝ 60pips のマイナスです。１か月（20 日）になると、実に 1200pips マイナスからのスタートです。**はたしてあなたのトレードは、これに見合うだけの利益が見込めているでしょうか？**

わずかばかりの逆行が怖いから。わずかばかりの利益のチャンスすら逃したくな

いから。これらの結果、非常に大きなリスクを抱えていることを理解すべきです。

獲得 pips というのは確かに大切です。だけどもっと大切なのは

**それがどれだけのリスクの上に成り立っているのか**

ということです。

相場の先は誰にもわかりません。それはつまり、
**トレーダー側では、リスク管理しかできることはない**ということですからね。

まずスプレッドリスクを考えるならば、徹底的にトレード回数を減らしたほうが稼げます。「エントリーチャンスがたくさん♪」なんて手法にだまされてはダメですよ。本書を読み進めていただければ自然とわかるようになっていますが、本当に安全にトレードできるところというのは限られているのです。

丁寧に資金管理をするならば、トレードは週に数回程度でも十分ですよ。

## 相場は簡単？　難しい？

相場というものは難しく考えがちです。かといって相場は簡単か？といえばやっぱりそうでもないんです。

訳のわからないインディケーターを使って、どこにも根拠のない数値設定で、ありもしない絶妙のエントリーポイントをさがし、勝率は限りなく100%に近く、エントリーには的確な矢印サインが出て教えてくれて、逆行しても祈れば思った方向に動いてくれて…

と、このように考えている限りは、トレードは非常に難しいもの、というか、永遠にたどり着けないものと言えます。上に書いてあることは笑い話のようですが、実は大半の勝てないトレーダーがやっていること（期待していること）ですよ。

ですが、ちゃんと負けを受け入れ、正しく知って、使える知識として身に着けることができれば、相場は決して難しいものではありません。

## サンプルはここまでです

維新の介が、どのように相場を見て、どのように投資を捉えて、相場にたいしてどう向き合っているか？

伝わりましたか？

『後出しジャンケン』と例えているトレードをできるようになりたい方は維新の介のトレードマニュアルの続きを読んで、もっともっと相場の世界における大衆心理を知って下さい。

### 維新の介

独自のテクニカル分析理論に定評があり、とにかく「負けない」トレードを得意とする。

デイトレード中心で、この４年ほど１日単位での負けはほとんど記憶にない。

個人トレーダーとして雑誌紹介、講師依頼等多数。オフィシャルブログ：月収 50 万円 !!! FX でこう稼ぐ　～トレード手法大公開 !! ～